

Olympic
Movement

<平成29年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県立平塚中等教育学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成29年10月26日 (木)
- 場 所 : 神奈川県立平塚中等教育学校
- ク ラ ス : 2年1組 (40名)、2年2組 (40名)
- オリンピック : 伊藤 華英 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・簡単な自己紹介の後、オリンピックシンボルの意味を紹介。オリンピックバリューについて簡単に説明し、今日の授業では3つバリューを意識して取り組んでほしいと伝え、準備体操へ移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳びを全3回実施。各回終了後に作戦タイムを設け、回数を増やすためにチームごとに話し合う。「縄を短くする」「焦らず跳ぶ」「縄の真ん中で跳ぶ」等の工夫点が発表され、より多く跳ぼうと積極的に取り組む姿勢が見られた。

4. まとめ



・運動の時間で3つのバリューを実感できたか確認。何事も全力で取り組むことで成長できること、友達を大切にすることは生活を豊かにすること、相手への敬意を示すことが大切であることを伝え、次の座学の時間では、伊藤先生の経験を紹介するのでオリンピックについてさらに学んでいこうと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・北京大会、ロンドン大会の写真を見せながら改めて自己紹介。オリンピックに出場したいという強い信念を持ち、毎回の練習に120%の力を出して取り組んだ結果、北京大会に出場できたことや、ライバルの存在を認められるようになってから自分もより成長できたこと等をバリューに当てはめながら話す。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問：日常生活の中のオリンピックバリューを見つけよう。
 ・発表：コミュニケーションをしっかりとる、自分の決めたことをやりきる(エクセレンス)、友達とのつながりを大切にする、チームメイトに声掛けをする(フレンドシップ)、相手の長所と短所を知る、人との出会いを大切にする(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・今は夢や、やるべきことが分からないかもしれないが、学校生活はやりたいことを見つけるためにあり、多くの人と友情を育てて感性を身につけてほしいと話す。周りから応援される人になるためにもまずは挨拶を大切にしたいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年10月27日 (金)
- 場 所 : 神奈川県立平塚中等教育学校
- ク ラ ス : 2年3組 (40名)、2年4組 (40名)
- オリンピアン : 三好 智弘 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・三好先生から自己紹介。今日は楽しくオリンピックについて考えて学んでほしいと話し、オリンピックシンボルの意味について説明。その後、3つのオリンピックバリューを簡単に紹介し、今日の授業では2時間を通してオリンピックについて考えてほしいと授業の目的を確認した後、準備体操に移る。

3. 主運動



・6班に分かれて風船リフティングを全3回実施。手をつないで円になり、腕以外の部分を使って左隣の人に風船をパスする。制限時間内にリフティングできた回数を競う。各回終了後に1分間の作戦タイムを設け、三好先生からは「全力で取り組むこと」「笑顔で取り組むこと」「声を出すこと」の3つを約束。

4. まとめ



・3つの約束を守れたかを問いかけ、回を追うごとに工夫する姿勢や、チームの仲間と協力している姿勢が見られたのがすばらしかったと伝える。次の座学の時間では、三好先生の経験を伝えるので、皆には運動の時間で学んだことを振り返ってほしいと伝え、授業を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・オリンピックの価値について考え、バリューをより身近に感じてもらいたいと授業の目的を確認。オリンピックの歴史やクーベルタンを紹介した後、三好先生が競技を始めてから現在までの経験をバリューに当てはめながら説明。

3. 個人ワーク



- ・運動の時間を振り返り、オリンピックバリューについて考える。
- ・発問①：バスをつなげるためにどのような工夫をしたか。(イクセレンス)
- ・発表①：他のチームの動きや良い所を取り入れた、風船を動かさず自分達が動くようにした。
- ・発問②：意見を受け入れたり、友だちの長所を発見できたか。(リスペクト)
- ・発表②：チームメイトがハイタッチしてくれた、作戦タイムで意見を出し合えた。
- ・発問③：どのようにチームワークを高めたか。(フレンドシップ)
- ・発表③：風船の動きを見ながら皆で声を出し合った、相手が取りやすいように風船をバスした。

4. まとめ



・オリンピックバリューは日常生活の中でも活かすことができ、これらのバリューを実践することによって、人は成長することができることを伝える。皆も小さな努力をコツコツ積み上げる「プラス1の法則」を意識して、これからの人生を歩んでほしいと伝え、授業終了。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





■ 集 合 写 真

2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 証明書贈呈

